

3週間の実習が終了した。今までの人生でこんなに早く過ぎ去り、また充実していた3週間は経験したことがなく、貴重な時間を過ごすことが出来たと感じている。私は2年〇組のホームクラスと、2年生の国語を3クラス担当し、計28コマ授業を行った。ここからは私が実習を行い、印象に残った以下2点について述べる。

1つ目に授業に関することだ。授業において50分間の時間すべてを1人で教壇に立ち、授業をするということの大変さを、身をもって感じた。まず授業内容の準備では、「教材から生徒に何を学ばせたいのか」を明確に持つ事の大切さを学んだ。教員にその確かな軸が無ければ、生徒たちは十分に力をつけることが出来ない。授業を行うには、まずは教員が教材としっかりと向き合い教材研究を深める中で、教材から生徒に身につけて欲しいことを考えることが必要だと思った。また、国語科の面白さであり難しさとして、授業の展開方法や手段が多様だということが分かった。授業を行う中で、どのような方法・手段が適当かを日々考え続けることが必要だと考える。また実習中に、どれだけ準備や練習を重ねても授業に対する不安が消えることは無く、そして実際に生徒を前にすると反省点・改善点が尽きることはなかった。板書や時間配分、生徒への声かけの仕方など難しいと感じることは多くあった。特に黒板にチョークを使って文字を書くということは、自身が予想していたより遥かに難しく、文字の大きさや書く位置など意識することが沢山あった。今回の実習では主に黒板とプリントを中心に進めたため、ICTはあまり使用しなかった。しかし、これからの教育にはICTは欠かすことが出来ないツールだと考えているため、将来教員として働く際には学校の状況も鑑みながら積極的に取り入れたい。またその際には、ICTと板書の使い分けが重要となってくると考えられるため、今回の実習での経験を活かして、より良い授業を展開したい。そして授業をする中で、国語の知識だけではなく幅広い知識が必要であることを痛感した。生徒たちの興味を引き出し、授業を通して様々な学びを授けるには、教科を問わず豊富な知識量が必要となる。今回の実習では、担当教員をはじめ、多くの先生方の授業を見学させて頂いたが、ただ担当教科だけではない様々な学びが授業のなかで行われていた。私にはまだまだそういった力が足りないと感じたため、残りの大学生活や日常、また社会生活から常に学び続ける気持ちを持って過ごし、知識を増やしていきたい。

2つ目に、生徒に関することだ。今回の実習を通して、先生方は心から生徒を大切に想い、愛情を持って関わっておられることを実感した。また生徒たちも言葉にせずとも、そういった先生方の気持ちを敏感に感じ取っているように見えた。私は合唱コンクールの練習期間に実習をさせていただいたが、金・銀・銅賞の結果だけではなく、生徒たちにとっていかに大切な思い出となり、また成長する経験にするかは、日々の練習をそういったものにするかに掛かっていることを学んだ。そのためにも、教員の生徒たちのやる気を引き出すような声かけや、行動の在り方が重要であると考えた。教員が1人だけでやる気になり叱ったり、あるいは生徒たちに任せすぎていたりしては、合唱は良い物にはならない。正解はないかも知れないが、教員になった際には生徒たちの心を動かすような教員になりたい。

この実習期間で、教員という仕事の責任や大変さを知るとともに、それらが全て報われるようなやりがいや楽しさをあらためて感じた。そして先生方の生徒たちに対する熱い思いを感じる事が出来て、私もこんな先生方になりたいと強く思った。いつも私を温かく支えてくださった先生方と、つたなく分かりにくい授業をしてしまったにも関わらず、一生懸命、真剣に授業を受けてくれた生徒たちに感謝し、この経験を胸に教職の道をこれからも頑張りたい。